第１９期一般社団法人廃棄物資源循環学会理事候補所信一覧

投票用紙記載の番号順で掲載（届出順・敬称略）

【理事立候補者】

1.　氏名：石井一英　　所属：北海道大学

廃棄物資源循環学会の活動を通して、日本・世界のカーボンニュートラルとネイチャーポジティブを考慮したサーキュラーエコノミーの形成に貢献していきたいと思います。特に、サーキュラーエコノミー時代に相応しい技術開発のみならず、社会実装を念頭にした合意形成問題や環境配慮への行動変容に力点を置きたいと思います。学会活動としては、サーキュラーエコノミーの上流側の企業や団体への交流を盛んにし新規会員の獲得に尽力するほか、賛助会員・公益会員の皆様にとっての学会の価値を高めるための活動を行っていきたいと思います。

2.　氏名：宮脇　健太郎　　所属：明星大学

現在、理事として企画運営委員会に微力ですが関わらせていただいております。理事会、委員会等、この２年間まだまだ十分な働きができておりませんでした。会員増強、若手育成（研究者、実務者）など現在の本学会の課題について、また会員皆様のサポート役として継続した取り組みをさせていただきたいと考え、立候補することといたしました。なお、過去の学会とのかかわりでは、学生会員から入会し、編集委員会、関東支部、選挙管理委員会などで活動を続けてまいりました。皆様と共に新しい時代に向かう学会となるように活動してまいります。よろしくお願いいたします。

3. 氏名：浅利　美鈴　　所属：総合地球環境学研究所

国際展開（特に 3RINCs 実施）や災害廃棄物等をテーマにした取組で、一会員として取組むと同時に、理事という立場から、学会全体の理解も進んできました。今後も引き続き、学会の活性化や社会における主流化、それらを通じた循環型社会構築に向けて、貢献していきたいです。特に、本分野の国際展開については、3RINCs や英文誌を活かしながら、より効果的な展開を目指し、顔が見えて、一定期間持続する関係性を、いくつかの国・地域と模索したいと考えています。災害廃棄物についても、学術と社会貢献が両立する形での関係性構築を模索したいです。循環経済や脱炭素化に向けた社会の大きな変化を捉え、新会員やネットワークの獲得にも貢献したいと考えています。

4. 氏名：石垣智基　　所属：国立環境研究所

科学が社会システムの一部として組み込まれ重要な役割を果たすようになった、いわゆる「科学の制度化」が進行した現在において、学会という組織に対して社会からの期待と同時に厳しい目が向けられていることを実感する。実学に根差したアプローチが特徴的である廃棄物資源循環学会の活動は、産官学民の様々な立場を尊重した討議の場のモデルとなりうると考えている。エビデンスの発信にとどまらず、社会における科学的コミュニケーションの推進を図るべく、本学会の活動に貢献する所存である。

5. 氏名：秩父 薫雅　　所属：株式会社神鋼環境ソリューション

私は第 14～16 期で企画運営委員長、17、18 期で副会長として、重点課題となっている会員数の増強と財政基盤の強化、その改善に寄与する企画に取り組んでまいりました。次期第 19 期では、引き続きこれら重点課題に取組み、学会の一層の発展に貢献するため、以下の所信をもって理事に立候補させていただきます。①産学官民、動静脈の連携による活動を推進し、脱炭素、循環型社会、廃棄物問題の解決に貢献する。②研究成果・活動を積極的に外部に発表・アピールするとともに、会員数の増加につながる企画を推進する。③収益改善、効率的運用による安定した財政基盤の確立を進める。

6. 氏名：渡辺　信久　　所属：大阪工業大学

学会プレゼンス向上と持続のための活動として、

1 長い目で見て価値のある学会誌等での発信(18 期実績 編集委員長に続いて)

2 ホームページ刷新のための連絡調整(18 期実績 副会長につづいて)

3 産業界との良好な関係(とくに役職とは関係ありませんが)

を心がけて活動したいと思います。

7. 氏名：山本　昌宏　　所属：中間貯蔵・環境安全事業株式会社

環境省（2021 年 7 月退職）における学会との連携の経験を活かして、行政施策と連携した学会活動による社会貢献を目指したいと考え、第 17 期、18 期と理事に立候補し、副会長として学会活動に携わってまいりました。今期の活動では、POPs 関連記録編集検討会の立上げ、運営に関わるなど学会員としての取組を具体化することができました。当検討会では来期に一定の取りまとめと、その成果としてのシンポジウム開催も計画しており、引き続き理事として学会活動に参加することで取組を継続したいと考え、立候補を決意した次第です。どうぞよろしくお願いいたします。

8.　氏名：古林　通孝　　所属：カナデビア株式会社

私は長く廃棄物処理施設の研究開発業務に携わり、学会には 1998 年に入会以降、年会など様々な活動に毎年参加してきました。また、2006 年から学会運営に参画し始め、現在は関西支部、廃棄物焼却研究部会、および学術研究委員会の活動に携わっております。特に、支部活動では、2006 年から毎年開催している「廃棄物法制度に関するセミナー」において、チーフの立場で企画･実行し、学会運営に貢献するとともに、会員増強にも努めてまいりました。

私はこれまでの経験を活かし、より一層の学会活動への参画を通じて、持続可能な社会の構築、ならびに学会のさらなる発展に貢献すべく、理事に立候補いたします。

9. 氏名：高岡　昌輝　　所属：京都大学

私は、第 18 期の会長を務めさせていただきました。脱炭素社会や循環経済への移行の下、廃棄物資源循環の分野が広がっていく中で、学会としての役割は、廃棄物資源循環学の追究とその成果の社会還元の促進、人材育成及びネットワーク形成の場であるとして進めてまいりました。多くの方のご協力で新企画のセミナーや表彰制度などが始まり、法人会員も増加しましたが、学会の魅力の発信や人材を育成するために実施すべき課題は残っており、より一層様々な立場の方と協力し、学会としての存在感を高め、持続可能な学会を目指したいと思い、立候補させていただきます。よろしくお願いいたします。

10.　氏名：袖野 玲子　　所属：芝浦工業大学

脱炭素や循環経済に向けて社会の仕組みの変革が求められる中、本会の活動が貢献できるよう、国際委員会（第 18 期委員長）や産業廃棄物研究部会（部会長:2021 年～)、関東支部の活動を通じて取り組んでまいる所存です。廃棄物と社会経済的課題との複合的な解決を志向した活動が不可欠であり、学術的な知見に基づく政策提案や、学会ネットワークの国際化、産官学の連携を促進してまいりたいです。廃棄物資源循環政策を含む 20 年間の環境省における経験及び大学における研究活動を基に、本会の更なる発展と社会への貢献を進めるべく尽くしてまいります。

11.　氏名：大下　和徹　　所属：京都大学

私は 2002 年より関西支部幹事として支部活動の活性化に関わり、2016 年からは学術研究委員、2022 年からは同副委員長として本会の学術振興に携わって参りました。本経験を活かし、この度、理事として立候補いたします。次の二点に貢献したいと思います。第一に、研究発表会や研究部会活動を支え、複雑化する循環型社会の課題に対し、産官学の緊密な連携による学際的な研究活動をさらに推進すること。第二に、支部活動の経験を基に、若手研究者や支部会員がより主体的に参画できる学会運営を目指します。伝統を継承しつつ、カーボンニュートラルや地域循環共生圏といった次世代の要請に対応できる学会発展に全力を尽くす所存です。

12.　氏名：村上　進亮　　所属：東京大学

私自身は元々は天然資源採掘に関する環境･経済側面の評価などを背景に持ち、持続可能性と資源利用に関するテーマを扱ってきた研究者です。循環経済への移行が進む中、改めて廃棄物資源循環学会の扱うテーマの拡がりとその重要性を踏まえ、自分に出来ることもあるのではないか思いました。特に、研究そのものだけではなく、今後の学会、ひいては関連する産官学を担う次世代の人材育成についてお役に立ちたいと考え、立候補を決意した次第です。どうぞよろしくお願いいたします。

13. 氏名：橋本　征二　　所属：立命館大学

脱炭素と資源循環の統合的な取組や循環経済への移行、情報通信技術の積極的な活用が求められるようになっている中、そうした変化に学会としても貢献できるような活動を行っていきたいと考えています。これまで、研究委員会委員（2004～05)、年会の実行委員会委員（第 22 回・2011、第 27 回・2016、第 34 回・2023)、関西支部幹事（2011～21)・副支部長（2022～)、情報技術活用研究部会（2018～)、編集委員会委員（2024～）等に関わらせて頂いてきました。これまでの経験を活かし、学会の運営に貢献できればと考えています。

14. 氏名：水谷 聡　　所属：大阪公立大学

学生時代に入会し，これまで編集委員会，学術研究委員会，国際委員会で活動してきました。また廃棄物試験・検査法研究部会の一員として，環告 13 号溶出試験の改正に関わる環境省受託業務などにも携わってきました。これらの経験を活かしつつ，学生時代に自分が初めて年会に参加したときのわくわく感を，若い人たちに感じてもらえるような学会にしたいと考え，立候補を決意した次第です。どうぞよろしくお願いいたします。

15. 氏名：齋藤 優子　　所属：東北大学

学術・産業・行政・市民等各分野の方々が集い、共に社会課題解決に向けて協同する学会の意義・役割の重要性はますます高まっています。私はこれまで企画運営委員（副委員長)、廃棄物計画研究部会（幹事長)、東北支部（幹事）として、セミナー企画や学会活動の社会還元、普及啓発、本部と支部との連携企画等を行ってまいりました。また 30 周年式典実行委員を契機としてこれまで本学会が果たしてきた社会的重要性を実感しております。これらの経験を踏まえ、第 19 期は循環経済・脱炭素の具現化のために資源循環分野に求められる期待に応えるべく、研究成果・セミナー等学会活動の発信、人材育成などを通じ、本学会の活性化に力を尽くす所存です。

16. 氏名：竹田　航哉　　所属：　川崎重工業株式会社

第 19 期理事選挙に立候補しました川崎重工業の竹田と申します。第 14 期からの企画運営委員を経て、17 期より企画運営委員長として学会の魅力発信と財政基盤の強化に取り組んできました。

脱炭素化社会の実現に向けて資源循環の動きが加速していく中、当学会が関係する分野は多岐に渡っています。こうした時期において学会が持続的な発展をしていくためには、学会のプレゼンスを益々高めるとともに、会員のすそ野を広げていくことが重要と考えています。

多様な分野の方々が、つながっていける活動をこれまでの経験を踏まえて展開し、社会により貢献できるよう、皆さまのご指導のもと励んでいく所存ですので、よろしくお願い申し上げます。

17. 氏名：中山　裕文　　所属：　九州大学

廃棄物資源循環学会が取り扱う問題群は、工学、経済学、社会学など多岐にわたる分野にまたがる複雑な課題であり、分野横断的な専門家の協働によって発展してきました。このような状況の中、立候補者は、IoT、AI といった新興分野との連携を進め、脱炭素、循環経済、自然再興といった社会的要請に応える研究の推進に取り組んできました。今後も引き続き、廃棄物資源循環分野が有する知見と、これら先端分野とのシナジーを活かしながら、学際的研究の深化と新たな研究領域の創出を図ることを目標とします。あわせて、経済発展と社会構造の変化が著しいアジア太平洋地域をはじめとする国際社会において、持続可能な廃棄物処理・資源循環システムの構築に貢献するため、国際的な研究協力と人的交流の一層の強化を重視していきたいと考えています。

18. 氏名：平井　康宏　　所属：　京都大学

私は本学会において 2008 年より編集委員会委員/幹事として活動し、2024・2025 年度は副編集委員長を務め、学会誌・論文誌の円滑な編集運営に携わってきました。また、企画運営委員会委員、物質フロー研究部会幹事を担当しています。今後は、これまでの経験を活かし、特に学会誌・論文誌の編集を軸として、学会運営に参画し、学会の発信力強化と学会活動の活性化に貢献したいと考えています。

【監事立候補者】

1.氏名：若林 秀樹　　所属：鹿島建設 株式会社

第 18 期理事の若林です。私は最終処分場等の廃棄物処理やリサイクルに関わる業務に長年携わってきました。これまで理事および企画運営委員を務めさせて頂きましたが、皆様にご指導、ご支援を頂戴しありがとうございました。本学会の使命である循環型社会の形成と廃棄物に係る諸問題の解決への実現に向け、学会そのものが大きな変革期にあると思います。本学会は多くの学会員の熱意と豊富な学術的基盤を基に、より一層社会に向けて発信し、循環型社会の形成に不可欠な存在になっていく必要があると考えます。私は建設業の立場から、引き続き学会運営の一翼を担いたいと思い監事に立候補いたしたく存じます。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。